

CIM 導入ガイドライン クイックリファレンス

第1編

共通編

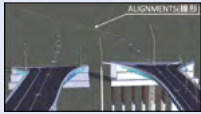

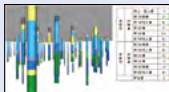
CIM 対象となる工種および CIM モデルの定義

作成すべき CIM モデルと対応するオートデスク製品

国土交通省 CIM 導入ガイドライン

構成		適用
第1編 共通編	第1章 総則	公共事業の各段階(調査・設計、施工、維持管理)に CIM を導入する際に共通で適用する。
	第2章 測量	
	第3章 地質・土質	
第2編 土工編		道路土工及び河川土工・海岸土工・砂防土工・舗装工・付帯道路工を対象に、測量段階で UAV 等を用いた公共測量を行うこと、設計段階(土工・舗装工の3次元設計)で3次元データを作成すること、更には施工段階で3次元データを ICT 活用工事に活用する際に適用する。
第3編 河川編		河川堤防及び構造物(樋門、樋管等)を対象に CIM の考え方をういて調査・設計段階で CIM モデルを作成すること、作成された堤防・構造物モデルを施工時に活用すること、更には調査・設計・施工の堤防・構造物モデルを維持管理に活用する際に適用する。
第4編 ダム編		ロックフィルダム、重力式コンクリートダムを対象に CIM の考え方をういて調査・設計段階で CIM モデルを作成すること、作成された CIM モデルを施工時に活用すること、更には調査・設計・施工の CIM モデルを維持管理に活用する際に適用する。
第5編 橋梁編		橋梁の上部工(鋼橋、PC 橋)、下部工(RC下部工(橋台、橋脚))を対象に CIM の考え方をういて調査・設計段階で CIM モデルを作成すること、作成された CIM モデルを施工時に活用すること、更には調査・設計・施工の CIM モデルを維持管理に活用する際に適用する。
第6編 トンネル編		山岳トンネル構造物を対象に CIM の考え方をういて調査・設計段階で CIM モデルを作成すること、作成された CIM モデルを施工時に活用すること、更には調査・設計・施工の CIM モデルを維持管理に活用する際に適用する。
第7編 機械設備編(素案)		機械設備を対象に CIM の考え方をういて設計段階で CIM モデルを作成すること、作成された CIM モデルを施工時に活用すること、更には設計・施工の CIM モデルを維持管理に活用する際に適用する。

CIM 導入ガイドラインで作成すべきモデルと対応するオートデスク製品

CIM モデルの種類	CIM モデルのイメージ	対応オートデスク製品
(1) 線形モデル	(1) 線形モデル 	 AUTODESK® CIVIL 3D®  AUTODESK® RECAP™ PRO
(2) 土工形状モデル	(2) 土工形状モデル 	
(3) 地形モデル	(3) 地形モデル 	
(4) 構造物モデル	(4) 構造物モデル 	 AUTODESK® REVIT®
(5) 地質・土質モデル	(5) 地質・土質モデル    ボーリングモデル テクスチャモデル 準三次元断面図	 AUTODESK® CIVIL 3D®
(6) 広域地形モデル	(6) 広域地形モデル 	 AUTODESK® NAVISWORKS®
(7) 統合モデル	(7) 統合モデル 	 AUTODESK® INFRAWORKS®